

技能検定
電子機器組み立て3級

知事表彰受賞

大澤隆世くん

おおざわ たかせ

ジュニアマイスター
顕彰制度

特別表彰受賞

中山大雅くん

なかやま たいが



→中山くん(写真右)危険物取扱者免状と技能検定合格証書を手にとり、大澤くん(同左)第一種電気工事士合格証書と陸上三千m障害で獲得した賞状を手に。

第59回卒業式 184名の集立ち



印刷所 ひがし印刷
TEL 0748-46-2108

本日十時より本校体育館にて、第59回卒業証書授与式が挙行される。昨年同様、新型コロナウイルス対策の観点から在校生の列席はない。式中で生徒会長の大澤隆世くんが在校生代表で答辞を述べ、本校で三年間の努力を重ね、未来へと歩みを進める卒業生に、在校生一同、精一杯のエールを届けたい。

中山くん 最難関 危険物甲種合格・機械科だけ第二種電工も

「コツコツは無理 追いついてギリギリ直前に詰め込む」

卒業生は二年・三年の二年間を、感染対策をして過ごしてきた。突然の休校や行事の中止・縮小を数多く経験した学年だ。制約も多かった中で、どうやって己に磨きかけたのか。二人に話を聞いた。長いようで短い八工生活をどう過ごすべきかが、在校生に問われている。



行け行け八工生 八工魂どこまでも

ジュニアマイスター 受賞者一覧

- 【特別表彰】 中山大雅(3-2)
- 【ゴールド】 村田達哉(3-1) 西村仁輝(3-2) 大神 凜(3-2) 西川白徒(3-4)
- 【シルバー】 長瀬阜太郎(3-1) 大澤隆世(3-3)
- 【ブロンズ】 上田達也(3-1) 北川大佑(3-3) 佐々木悠斗(3-4)

中山大雅くんは、三年生で唯一ジュニアマイスター顕彰制度で特別表彰を受賞した。ジュニアマイスター顕彰制度とは、検定や資格の難易度に合わせ得点が決められているもの。三年間で合計30点以上でシルバー、45点以上でゴールドが授与される。60点以上で特別表彰だ。中山くんは60点で特別表彰に到達した。中学の頃から「勉強や大学進学にあまり興味なかった」という中山くん。就職先が選ばれている本校を志望した。

テスト前だけは「そこそこ勉強する」けれど、普段は特段勉強したことはなかった。高校一年生の二学期、担任の

就職が魅力の八工 高山先生と友達と一緒に越えた

「勉強したくない派 でもやらなあかんことはやるんです」

高山先生に勧められ、危険物乙四の受験を決めた。試験の日は刻々と迫るも、勉強はやって一日30分程度。気づけば一週間前、読み進めたテキストは20ページ程度だった。し

かし、ここからが中山くんの本領発揮。試験までの一週間、連日5〜6時間勉強をした。勉強スタイルは「一回限りで絶対覚える」という集中してテキストを読み込む方法。見事一発合格を果たす。

「あんまり勉強したくない」派の中山くんが頑張った原動力はなんだったのか。一言でいうと「就職」だ。高校を卒業して、次に行くところ。

「人生の大半が就職で決まると思っていた」という。特に志望企業ややりたいことが明確ではなかったがゆえに「いろんなものを受けた。どんなことにも挑戦できる」という強みを掴み取った。これから飛び込んでいくステージを前に、よい意味での「焦り」があった。

実際の就職試験では、面接でも資格取得についてPRできたし、資格欄はたくさんある。特にガツガツいくタイプでもない。けれど「受けるなら合格しないとイヤだ」と言い切った。

大澤くん 「資格も部活も自分がやりたいと思ったことはすべてした」

陸上部部長として「ついてきてくれた皆に感謝」

本校電気科で、皆が挑戦する第二種電気工事士。

前期で第二種を受験し、合格したら後期で第一種に挑戦するのが通例だ。大澤くんが二年生の年は、コロナのため前期試験が中止となった令和二年度。後期に第二種・第一種を同時受験することになった。朝寝坊を続け、

秋に筆記試験に合格した。その後、連日の放課後居残り訓練が始まる。第二種の技能を二つ、第一種の技能を二つ、毎日三時間ほどの練習を繰り返した。電気は目に見えないが、頭でイメージを膨らませて考えるのが面白かった。

「八工魂を地でいった 文武両道のお手本」

陸上部顧問亀田先生

技能練習を終え、ラスト一時間走り込む。帰宅は九時〜十時だった。

めっちゃ頑張った二年生の冬。結果は見事、第二種・第一種合格。駅伝では第一走10kmを走り、目標だった「中盤の順位で後続につなぐ」こと

「資格勉強のため、部活に参加できない時もあった。副部長の村田くんがチームのために尽くしてくれた。三年生の他のメンバーも最後の春に向けて進んで自主練してくれて」という。亀田先生は「僕は主張も強くない。張も強くない。まどめるのも得意じゃない。それでもついてきてくれた皆に感謝している」と語った。「顧問の先生も、本当に忙しい中僕らのために動いてくださった。各種大会・練習会に出させてもらって、いろんな機会を与えてもらった。

卒業後はどうするのかとの問いに「日本電気硝子(株)に就職します。資格の最終目標は第二種電気主任技術者。これからが本番。気を引き締めていく」と語る大澤君が実に頼もしい。



卒業

あなたの人生は、もう間もなく折り返しを迎えます。なにも、冗談を言っているわけでもない。自分の進路が決まり、広い世界へ旅立ちとうとうして、あなたは人生の残り半分なのです。「ジャーネーの法則」というものをご存じだろうか。簡単に言うと、年をとるにつれて体感時間は短くなるというものだ。5歳の子供において、一年は人生の1/5に相当する。しかし、50歳では1/50でしかない。「あれ？もう一年経った？早いな」とか思っているそのあなた。体感時間、短くなつてますよ。この理論を基に考えると、人生とこの18歳前後で半分を終える。なんと哀しいことだ。だがしかし、これを打ち破る方法が一つだけある。それもジャーネーの法則は「年を重ねるにつれて新たな発見が少なくなる。惰性で毎日過ごすようになる」という考えに基づいたもの。ならば、新しい発見を繰り返せばよいのだ。大それた発見でなくともいい。小さなことでもいい。何か新しい要素を常に人生に取り入れ続ける。これが大切だ。進学した先で勉強をしながら毎日色んなことをして遊ぶもよし。就職した先での新たな生きがいというの当然あるだろう。そういった変化に斜に構えるのではなく、全力で楽しもう。「マジつまんね」とか普段から思っているその君。面白くないのは周囲ではなく、物事を面白がる感受性に欠ける君自身ではないだろうか。私はそう思う。人生とは出会いと別れの連続である。出会いは人生を豊かにし、別れは人生を深くする。別れから生まれる出会いもある。こうして人生に新しい要素が増えていく。人生とは出会いと別れの連続である。しかし卒業は別れではなく門出だ。笑って見送ろう。ちなみには今までに多くの別れを経験してきたが、論吉さんとの別れが一番悲しいものだ。早く栄一さんと出会いたくなく折り返しを迎えます。(川)